

## JD Farag 牧師 中東アップデート 2017年12月24日公開

.....  
クリスマス希望

今年のクリスマス礼拝のタイトルは、「クリスマス希望」です。今年は、主が何を語ろうとされているのか祈り求めた結果、明確に示されたのは、クリスマスが与える事の出来る希望についてでした。特に、葛藤し、傷ついている人には、多くの場合、クリスマスの季節にそれが一層大きく感じられ、多くの人にとっては、つらい時期であると思います。クリスマスにまつわる統計などで、落ち込ませたりはしません。実は以前、それをした事がありました。これらの統計は、本当に気持ちが沈みます。だから、もう二度としません。その代わりに、クリスマスの希望をもって、皆さんを励ますことが出来ればと思います。

聖書のルカの福音書2章を開いてください。1節から20節までお読みしたいと思います。ルカが聖霊によって、次のように書いています。

“そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初に住民登録であった。それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、身重になっている。いいなずけの妻マリヤもいっしょに登録する為であった。ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼い葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。御使いは彼らに言った。

「恐れることはありません。今、私はこの民全体のための素晴らしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそキリストです。あなたがたは、布にくるまって飼い葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

すると、たちまち、その御使いと一緒に、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」  
御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。

「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」  
そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼い葉おけに寝ておられるみどりごを探し当てた。それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。” (ルカ 1:1-20)

では、一緒に祈りましょう。

主よ。あなたの降誕の物語は、決して古くなることはありません。主よ。今日、私たちが集まって、あなたの降誕を祝う中で、いつもあなたがして下さるように、新鮮で、新しい形で、あなたご自身を、私たちに示してください。特に、今日、深く傷ついている人たちに。それが誰の事か、あなたはご存知です。また、彼らが何に傷ついているのかも、あなたはご存知です。私たちは、外見しか見ませんが、あなたは心をご覧になりますから、ですから主よ。どうか、私たちの心に働きかけてください。イエスの御名によって、アーメン。

救い主の降誕の物語の中では、私はルカが書いている話が大好きです。たくさんの、興味深い詳細が織り込まれていますから。毎回これを学び、思い巡らして、その後これを教える度に、この詳細が、聖書のページから飛び出してくるよう感じるのです。そして、これらの軌跡が生き生きと見えてくる。今日のメッセージをまとめている時にも、ものすごいパワフルに、私の中に響いてきました。これが、どれほど壮大な出来事だったか。そこに居て、この奇跡をみるなんて、どれほど素晴らしい事か。それも、自分の目で見て証しするだけでなく、それ以前に、イエスが生まれたあの夜を経験すると、どんな感じなのでしょう。イエスが生まれた時、彼らに与えられた新しい希望とは。今日はそれについてお話ししたいと思います。クリスマスから与えられる励ましと、新しい希望について、です。私たちの知る通り、この人類史上最後の時代には、特にそれが必要です。今日は、これらの詳細についてお話ししたいと思います。そうする中で、この、クリスマスの季節、私たちの人生で起こっている事の点と点を、それぞれ、聖霊が結び付けて下さると信じています。

これからお話しするのは、クリスマスの希望を伝えている、いくつもある内の、3つの詳細についてです。全ての人の希望ですが、特に気落ちしている人たち、のけ者にされている人たちの為です。

一人目は、人知れず、夜に生まれたイエスです。これは、あまり重要でもないようにも思えるかも知れませんが、しかし、世の救い主が、夜お生まれになった事には、具体的な理由があると、私は思います。私が思うに、主な理由は、イエスがまさに世の『光』だったからではないでしょうか。彼が来られた世、生まれて来られた世は、それまでずっと、さらに今でもまだ、霊的に闇の中にあるからです。よく考えてみると、だからこそ、『光』が最も必要なのです。言うまでもありませんが、昼間に光は必要ありません。さらに言えば、夜ほど光に気が付かないでしょう。闇が暗ければ暗いほど、光が明るく輝くものです。だから、イエスは夜に生まれたのだと私は思います。昼間でなく、昼間の明るく忙しい時でなく、夜の遅く、静寂の中です。その時こそ、光が最も必要ですから。魂の闇夜と呼ばれる、死の陰の谷では、光が最も必要です。

ある人が、とても良い事を言っていました。死の陰の谷に、陰が出来るためには、光が無くてはならない。死の陰の谷であっても、まだ光があるのです。その闇の中にも、その魂の苦しみの中にも、魂の闇夜にあっても、世の光がまだそこにあるのです。だから、同様にこの闇夜にも、神の御使い達が、羊飼いの前に立った時、神の栄光の光が、羊飼いの周りに、とても明るく輝いたのです。

ところで、興味深いと思いませんか？世の救い主の誕生が、初めに告げられたのは、身分の低い羊飼いだっただけです。え？！これは、世の救い主ですよ！ずっと待ち望まれてきた、世の救い主の誕生が、身分の低い羊飼いに告げられたのです。「身分の低い」という意味を、皆さん理解しなければなりません。当時、あの社会で、羊飼いと、全人類の中で、全ての職業の中で、最も身分の低い者、誰よ

りも劣る者と見られていたのです。そして、見下されていた。さらには、社会のエリートからは嫌われていて、まさに無名の者達、全く価値がない、全く役に立たない者と見られていたのです。

そこで疑問がわきますね？人類史上、最も素晴らしい発表が、なぜ汚く、身分の低い羊飼いにのみたらされたのか？その理由はこうです。それは、この発表が、羊飼いでなく、社会のエリート達にもたらされていたらと、よく考えてみてください。大きな喜びのしらせは、ただこれらの人々だけのものだったのでしょう。そうですね？もし、救い主が、尊大で豊かなところに生まれていたら、「全ての人への」大きな喜びの知らせには、ならなかったでしょう。もし、身分の低い羊飼いに、大きな喜びをもたらしたなら、全ての人に、喜びとなります。あらゆる人生を生きている人、この世で名もなき人にとっても、です。それが、私たちにとって、大きな励みになるはずです。第一コリントで、使徒パウロが書いている事が、私はとても好きなのですが、彼はこんな風に言っています。

*“神は、知恵ある者をおぼろげにするために、この世の愚かな者を選び、強い者をおぼろげにするために、この世の弱い者を選ばれたのです。” (第一コリント 1:27)*

だから、世界の歴史上、最も大きな発表が、最も小さく、最も低い者にもたらされたのだと、私は思うのです。それによって、神が栄光を受けるから。だから私は、神が私を牧師、教師として呼ばれた事が好きなのです。神は、確実に愚かな者を選ばれました。最後の、最も小さい者。教会の牧師として、地球上で一番最後に思い浮かぶ者です。今でも覚えています。初めての同窓会に行ったとき。皆、未だに笑っていますよ。彼らは、私を見て、「お前が？」「牧師だって？」と言うのです。どうして神は、偉大なる方の為に、偉大なる事をするのに、愚かな者、最も低い者、最も小さい者を選ばれると思いますか？それは、そうすれば、ただ主だけが賞賛を受けるからです。私がどれだけ頑張ったとしても、言いたくはありませんが、私の肉の中に、良いものなど何もありませんから。私も、賞賛を受けたいですよ。でも、私がそうしようとすると、いつも主が、私の履歴書を思い出させてくれるのです。正確には、その不足と言いますか。何一つ、私の力ではありません。神は、知恵のある者をおぼろげにするために、愚かな者を選ばれたのです。

次に、2つ目の詳細です。それは、イエスが汚く、貧しい所で生まれたという事です。私にとっては、たくさんある中でも、この事にとっても感動するのです。その理由はたくさんありますが、中でも、私たちの人生の中で、その意味する事、それから、私たちの人生にそれが当てはまる点です。その理由を説明しますので、お付き合いいただければと思います。その為には、まず 12 節をご覧ください。

この 12 節に書かれている事を、よく見てください。イエスは「布にくるまっている」とあります。なぜ、この詳細が重要なのか。皆さん、この「布」が何であるかを、理解しなければなりません。これは、細長いひものような布の事です。ヨセフとマリヤには、それしか買えなかったのです。世の救い主ですよ。それが、宿には部屋が無かったため、彼らは洞窟のような所に行くのです。そこは、外から丸見えで、動物が暮らし、食事をする所です。そこが、世の救い主が生まれる場所です。そして、ヨセフとマリヤには、世の救い主をくるむ、良質の毛布も無かったのです。この布を、彼らはどこで得たのだろうと、私は思うのです。彼らは、救世主の誕生を予測して、それらを集めたのではないかと思うのです。彼らには、それしか無かったから。彼らには、差し出す者がそれしか無かったから。

救世主が、細長い布切れにくるまれていただけでなく、彼らには、救世主を入れる場所が、動物の飼い葉桶と呼ばれる、エサ入れしかなかったのです。想像してみてください。申し訳ないですが、そのエサ箱の中にあった、ヨダレ、食べこぼし、汚れを想像してみてください。それが、飼い葉桶です。飼い葉桶が実際にどういうものであったか、最後に写真をご覧ください、動物が、顔を突っ込んで飲み食いするものです。決して衛生的ではありません。そうでしょ？良いですか？これは、世の救い主ですよ！もしかしたら、彼らは藁や干し草を敷いたかも知れません。それでも、動物がエサを食べる所です。これについて、話したくない人が居る事も分かっています。しかし、実際にそうだったのです。ヨセフとマリアは、完全に、絶望的に貧しかったのです。しかし、この2人が、この女性、この処女が、世の救い主を、聖霊によって身ごもる為選ばれたのです。どうして、もっと資産のある人、恵まれた人が選ばれなかったのか？

これを、私は「BUT GOD/しかし、神は」と呼びます。この言葉が、私は大好きです。いつも言っているから、皆さんご存知でしょうが。いつも、この言葉の出る聖句、聖書の中でも私の大好きな箇所、「BUT GOD/しかし、神は」が書かれた箇所を読みますが、それは、この言葉が全てを変えるからです。よく聞いてください。ものすごく面白いからです。しかし、神は、神にしかできない形で、そして、神がいつもされるように、ヨセフとマリヤの経済的な必要を満たしたのです。どのようにされたか知りたいですか？面白いですよ。

神は、博士たちに黄金を持って行かせたのです。黄金、乳香、没薬です。ところで、これらは非常に高価な贈り物ですが、これらには、イエスがどういう方なのか、イエスが何をされるのかを示す意味がありました。彼らは特に、世の救世主を育てる為の、経済的必要を満たすのに十分な黄金を持って行ったと信じられています。

最後の詳細を見ていきます。

イエスは、意気消沈している人たち、見捨てられている人たちの所に、生まれてきた。19節に書かれた興味深い詳細を見てください。最初は、何となく読み過ぎしがちで、あまり深く考えないかもしれませんが。しかし、私たちに伝えられている事を、よく聞いてください。そこにはこうあります。

“しかしマリヤは、これらのことを、すべて心に納めて、思いを巡らせていた。” (ルカ 1:19)

なぜ、この漠然とした内容を、私は指摘するのか？中にはこれが引っかかる人もいるでしょうが。それはまず一つに、当時は、異常な事ではなく、マリアはおそらく、15, 16歳でした。救い主を出産した時、マリヤはおそらく15, 16歳。先ほど計算していたのですが、イエスが十字架にかかった時、恐らく彼女は40代後半です。すごい女性だと思いませんか？マリヤについて語るのは、時にとても難しいですよ。カトリックの領域を侵すんじゃないか、などと考えてしまいますから。しかし、最後に聖書に記されているマリヤの言葉が、何だかご存知ですか？それは、イエスが水をワインに変えた、最初の奇跡の場面です。これにも、引っかかる人がいるでしょうが、とりあえず話します。マリアは、その婚宴に居た人たちに、次のように言ったのです。

“「このかたが、あなたがたに言いつけることは、何でもしてください。」” (ヨハネ 2:5)

記録されている、マリアの最後の言葉です。マリアは、救世主を世に送り出すために神が使われた、救い主が必要な罪人だったのです。マリアの立場を想像することすら出来ないでしょう？イエスは、彼女の息子であっただけでなく、処女であった彼女から生まれたただけでなく、イエスは彼女の救い主でもあったのです。

そこへ、羊飼いたちが大興奮でやって来たのです。「信じられない！主の御使い達が私たちの前に現れて、『救い主が生まれた』と言ったんだ！」マリアは、すでにそれについては知っていました。しかし、彼女はそれを完全に理解していなかった、と私は思うのです。御使いは彼女に現れて、彼女が世の救い主を産む、と彼女に言いました（ルカ 1:28-33）。彼女は信じられずに返事をしました。「問題があります。私は、男の人を知りません」と（ルカ 1:34）。興味深いのは、言語であるギリシャ語では、「ginosko」で、そこには経験を伴う知識、という意味を含みます。旧約、新約の両方で見られますが、「人は、その妻エバを知った」（創世記 4:1）にもあります。つまりこれは、彼らの婚姻と一緒に達成した、という意味、「ふたりは一体となる」です。

そこでマリアは、彼女の理解、彼女の限界ある理解の中で言ったのです。「どうして、そのような事になり得ましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」（ルカ 1:34）それに対して、主の御使いは言いました。「あなたは、聖霊によって身ごもるのだ。」と（ルカ 1:35）

マリアは、旧約聖書の預言を知っていたのだろうか、と私は思うのです。世の救い主が、処女から生まれる、とあらかじめ告げられていた事を。それが、彼女の頭の中、心の中で繋がったのだろうか？彼女は、様々なことに思いを巡らせたと思うのです。さらに言えば、あの日以来、彼女はこの事ばかりを考えていたんじゃないでしょうか。御使いが彼女の前に現れた時以来、彼女の人生はすっかり変わってしまいました。幼い少女ですよ。想像できますか？あの文化で、あの当時です。今日ではなく。未婚で妊娠しているのです。町中で、人が噂するのが聞こえて来るようです。次第にお腹が目立ってきます。それで彼女が、街の中を歩いていると、ヒソヒソ話が聞こえて来ます。「彼女だ」「あれだよ」と。

ヨセフはどうでしょう？天国で、ヨセフとマリアに会うのがすごく楽しみです。ヨセフの立場はどうだったでしょう。彼の友達との会話を想像できますか？多分、彼と縁を切ったでしょう。

「マリアが妊娠しているんだ。」—「わお、そうなんだ。」

「いやいや、僕の子じゃない。」—「へえ、もっと悪いじゃないか！」

「いや、そうじゃないんだ。彼女は、処女のまま聖霊によって身ごもったんだ。救い主を産むんだ。」—「ヨセフ、変なものを飲むのはよした方が良い。」「頭がどうかしているよ。」「幻想を見ているんだ。」

「違う、本当なんだ。」

バカにしたり、嘲るのが想像できませんか？彼らが外に出ると、「ほら、ヨセフとマリアだ。なんて神経なんだ。」

これを、現代風に言っても良いですか？若いヨセフと、さらに若いマリアが身重で、カルバリーチャペルカネオへを訪れました。処女出産を抜きにして、彼女は妊娠しています。しかし、彼らは結婚していない。その彼らが、あなたの隣に座りました。皆さんに向かって言いましょう。彼らはあなたの

隣に座ります。あなたの隣に。そこで、あなたは彼らの方を見ないようにするでしょう。彼らについて聞いているから。

「知ってる？聞いた？私たちの教会に来てる、新しい2人。」—「ハレルヤ！」

「違うわよ！彼女は妊娠してるのよ。でも2人は結婚していないの。」—「へえ...」

2人とも、どんな気持ちでいたのか、私には想像すら出来ません。特にマリアです。しかし、ヨセフもです。彼らに、どれほどの信仰が必要であったか、分かりますか？ヨセフの中に、全ての部分において、全く疑いがなかったと思いますか？マリアに御使いが現れた時、ヨセフはそこには居なかったのですよ。想像できますか？マリアが、御使いが現れた事を、ヨセフに告げた時、しかも、彼女は処女として世の救い主を産むのだ、と伝えた時。ヨセフの思考と心の中に、マリアが言った事に対して、少しも疑いはなかったのだろうか、と私は思うのです。もし、疑いがあつたとすれば、それは束の間だったと思います。ヨセフとマリアの2人とも心を、神は知っておられ、彼らは神を愛していたのです。彼らは、神を愛していただけでなく、さらに言えば、彼らはずっとメシアの訪れを願い、待ち焦がれていたのだと思います。よく考えてみてください。神は、心をご存知ではないですか？もちろん、ご存知です。そして神は、それぞれの心の願いをご存知です。だから私は、彼ら2人ともが、ずっとメシアの到来を待ち望んでいたのだと、心底信じています。さらに踏み込んで言えば、羊飼いたちもまた、来る救い主の誕生を、ずっと待ち望んでいたのだと私は思います。

こんな言い方をして申し訳ないですが、もし、救い主の降誕にまつわる状況を、私たちが見栄え良く、小綺麗に隠し、覆おうとするなら、私たちは大事なことを見落としてしまうと思うのです。ヨセフとマリアは、社会から見放されていました。彼らは勘当され、家族もおらず、たった2人っきりで、故郷から遠く離れていました。特にベツレヘムへの旅は、これも預言の成就なのです。私が、ルカ 2:1-20 を読んだ時、救い主に関する預言の数々が、それぞれ細部にわたって成就された事に気づかれましたか？その内の一つは、ベツレヘムで生まれるという事。それには、人がベツレヘムまで行かなければならないのです。その旅がどれほど困難であるか、皆さん理解しなければなりません。彼らにはお金がなくて、彼女は身ごもっている。その上、彼らはその時に、旅をしなければならなかったのです。ところで、彼女は妊娠後期ですよ。彼女が旅をしたのは、臨月の時だったようです。どれだけ大変だったでしょう。女性の皆さんは、男の私に何が分かる？と思いでしょうが。

福音の中で、私がいつも驚愕する事の一つに、こういった人達、こういった類の人々に、イエスは惹きつけられたのです。それから、これは双方に言える事で、彼らも、イエスに惹きつけられました。イエスは、どうしても無い人や、絶望している人に惹かれたようです。だから、驚くことでもないのですが。

イザヤ 61 章には、初臨に関するこの預言があります。何年も後に成就として、シナゴグで、イエスが読まれた御言葉ですが、ここに書かれている事をよく聞いて下さい。

“神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油を注ぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。”

金持ちにではなく、エリートにでもなく、貧しい人にです。傷ついている人に、意気消沈している人に、見放された人に、ただの人に、です。詩編を思い出します。

“主は、心の打ち砕かれた者の近くにおられ” (詩編 34:18)

主が、惹きつけられるのは、こういった人々です。続けて彼は言います。

“捕われ人には解放を、囚人には釈放を告げ、” (イザヤ 61:1)

彼は、その為に来られたのです。その為、来られたのですよ。ある人が言っていましたが、「彼の最高の行いは、私たちの最大の必要だ。」もし、私たちの最大の必要がお金であったなら、神は、私たちに経済学者を送ってくださったでしょう。そうですね？もし、私たちの最大の必要が、法的な問題であったなら、神は弁護士を送ってくださったでしょう。でも、それが私たちの最大の必要ではありません。私たちの最大の必要は、救い主です。イエスは、「わたしが来たのは、世を裁くためではない。」と言われました。彼は、世を救うために来られたのです。私たちはよく、主を「偉大なる医者」と形容しますが、主ご自身の御言葉によれば、「私は、健康な人の為でなく、病んでいる人の為に来た。」と言われました。それがあなたであり、私です。まっすぐ歩けず、盲目で、手足が萎えて、囚われて、心が傷ついている。そういった者のために、彼は来られたのです。あなたであり、私です。

先週、このクリスマスの説教をまとめていた時に、ある短編映画に出くわしました。

vidangel.com/thechosen (英語)

<https://ameblo.jp/kinoshita-kotoba/entry-12339871807.html> (字幕版)

Youtube チャンネル「DIVINE US」から動画「The Shepherd—羊飼い」へ

あの静寂なる聖夜の救世主の降誕が、どういうものであったのか、その緊迫感と、リアリティーが実によく撮られています。

飼葉おけの写真をお見せしたいと思います。



左側が、石の飼葉桶、右側が、石の墓です。これはイエスが死からよみがえる前に、イエスの体が実際に入れられたと言われている、石の墓です。これをご覧いただいたのには、いくつか理由があります。その一つは、ある人が言ったように、イエスの人生には、2つの本立てがあるのです。動画の最



後に、パリサイ人は、「どこにあるんだ！完全なささげものを、見つけたのか！」と言った時の、あの羊飼いの目を見てください。

完全なささげもの、救い主は、死ぬために生まれて来られ、その為に、私たちは新しく生まれ、生きる事が出来るのだ、とヘブル人への手紙に書かれています。イエスの誕生は、彼の死に向かっていて、私たちが、永遠のいのちを得る為、彼は死に打ち勝ったのです。これは良い知らせです。そうですね？羊飼いたちは、イエスを礼拝し、馬小屋を出る時、「皆に知らせないと！」「皆に知らせないと！」と繰り返していたのが、すごく良かったですね。救い主は、降誕の時、この世に来られ、布にくるまれて、石の飼い葉桶に入れられた。そして彼の死では、石の墓の彼の体は、布で巻かれました。「BUT GOD/しかし、神は」、しかし神は、彼を死からよみがえらせました。私たちに、永遠のいのちを与える為にです。

最後はこれで終わりにしたいと思います。永遠のいのちの、良い知らせをお伝えします。世の救い主の誕生が、その降誕と後の死によって、どのように、私たちに永遠のいのちの無償の賜物を与える事が出来るのか。これを、毎週礼拝の最後に行っている通り、救いのABCでご説明します。



#### **A=Admit/認める、Acknowledge/認識する**

あなたが罪人であることを、認める。または、あなたは罪を犯し、救い主が必要である事を認識する。ローマ書にはこうあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」 (ローマ 3:10)

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、” (ローマ 3:23)

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。” (ローマ 6:23)

#### **B=Believe/信じる**

Bは、イエス・キリストが主であると心で信じる。ローマ 10:9-10にはこうあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。” (ローマ 10:9-10)

#### **C=Call/呼び求める、Confess/告白する**

主の御名を呼び求める。ローマ書にはこうもあります。



“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ 10：9-10）

そして最後に、ローマ 10:13 にはこうあります。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」”（ローマ 10:13）

最後に皆さんにお伝えします。もし今日ここに、主の御名を一度も呼び求めた事の無い人が居るなら、今日以上に良い日はないでしょう。このクリスマスイブ、救い主の誕生を祝っているこの日を、あなたの救いの日にするには、ふさわしい日です。どうか、主の御名を呼び求めてください。

God bless you ! 御名さんのクリスマスが、最高で、最も祝福されたものとなりますように。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe（英語）、「DIVINE US」（日本語）を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」  
ヘブル 4：7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい